

# 酒々井町郷土研究会会報

第89号

平成10年7月1日発行

酒々井町郷土研究会

広報部

## うわなり打

青木 朝次

今から八百年位前平安末期頃から「うわなり打」(後妻打)と言われる風習があった。これは離縁された女性が自分の友達や一族の女性達をかり集め先夫の家に殴り込みをかけるものである。その数は十人から二十人に及び、身分の高い裕福な家なら百人以上の助太刀を集めたものも珍らしくない。「御覚えあるべく候」については〇月〇日「うわなり打」に参上仕るべく候しと果し状を突きつける。「成程(なるほど)ごもつとも心得て候。相待ち申すべく候」と返事が来る。当日になると離婚妻は輿や駕籠に乗り、打ち従う女性達は袴の股立ちを取り袴をかけ、或る者は髪をふり乱し或る者は鉢巻を締め、手に手に木刀・竹

刀・播り粉木・長箒・火吹竹などを持って、「憎つくき男、憎つくき後妻」の家にと赴く。風雲急を告げる後妻方も同数の助勢を揃えてこれを迎え撃つのである。離婚組は先ず台所から入り、当たるを幸いと勝手道具を打ちこわし乱暴狼籍の限りを尽くす。後妻側はそうはさせじと防戦に務め入り乱れて大乱戦となる。此の場合又物を使用する事と男性の介入はルール違反で許されない。おそらく先夫は身を縮めて同輩の家に難を逃れていたのであらう。やがて潮時を見て先妻方後妻方の媒酌人の妻や待女郎(婚礼の時新婦に付添って世話をする侍女役)が、「こらえ申され、こらえ申され」と仲裁調停に割り込み一件落着となる。此の風習は町人武士の別なく、広く全国的に行われ、大家、庄屋、村役、肝入り等が人情豊かに結婚の世話をする様になつた徳川時代の中頃迄続けられ

ていた。思うに離縁された先妻が後妻の台所殴りを大勢で打ち壊し、溜飲を下げることは、実に大らかで詩情さえ湧いて来る様な習慣ではないだろうか。

封建時代日本の男は欧米に比べ暴君であると言われているが、実際はさほどではないと説く人もいる。江戸の例を見ると人口の男女比は十対二くらいで、女性が非常に少なく、とても大切にされたと言う。

江戸時代鎌倉に駆込寺が設けられたが、門前の調停所(兼旅館)で話し合ひ、和解し連れ立って帰るのがほとんどで、東慶寺に引取られるのは年に数人程度だった。

しばらく堅い話が続きましたので、息抜きに昔の離婚の裁かれかたに少ししてみました。



うわなり打の図

植物のはなし(六)

マムシグサについて

亀井 香久乃

野山が緑一面の季節になると草むらでは生物の活躍期となります。昆虫や蛙は愛らしさもあります。蛇にはぎくりとしませぬ。特に蝮に出会ったら誰でも後退りて其の場を退きます。

隣市佐倉から移った私は、或る日、地元の方から「クツチヤミ」と言う言葉をききました。蝮のことだそうです。昔から此の辺りでは蝮をそう呼ぶとのこと、初めて聞いた「クツチヤミ」が、しばらく耳に残りました。哲学者梅原猛氏の「京都雑感」という文章の中に、京言葉では蝮を「クチハミ」と言うを書いてありました。そこで「クチハミ」を早口に唱えれば「クツチヤミ」になります。京都と酒々井の言葉が重なる不思議さには、てさて酒々井の旧家の姓には京の

字がついている家がかなりあるなと思えました。また、近在の古刹、松虫寺伝説も京が絡み、遠く思い巡らせば、京文化の流れがあったのではと途方もないことを考えました。愚かな発想でしょうか。



ここで、蝮草に付いて少しお話し致します。四 五月頃、湿っぽいの端などに、突然鎌首をもたげた形の異様な芽茎に出会うことがあります。緑紫色の斑のある先頭部は蛇かど見紛う不気味な姿です。その形から蝮草と和名が付いています。葉は広卵形複葉の二枚です。花は茎の中間に仏焰苞を背に細かい花が穂状についています。秋には真赤な熟果が

また不気味です。漢方では此の根を天南星<sup>テンナンセイ</sup>と言ひ、祛痰<sup>キタン</sup>、鎮痙<sup>チンキョウ</sup>薬に使用します。蝮草の近縁種に浦島草<sup>ウラシマソウ</sup>があります。これは花柄は本体のわきから地上に伸びて仏焰苞の先は糸状に長く、風にゆれる様が浦島太郎の釣糸を思わせて名付けられたものです。共にサトイモ科で軽い毒草の仲間です。以上徒然に一筆記しました。

九月に 野草観察会

今度の観察会は、社会教育課の木内達彦さんに同行していただく。ユートピア笠森へ行きます。その付近で野草を集めて、昼食後和室でゆつくり亀井さんを囲んで教えていただく事にしました。今回は笠森観音へは寄りませんが、ご参加下さい。

野草部





大寒の鎌倉金沢街道周辺を行く②

正井 和子

雪解けしたあとの冷気にしまる滑川ぞいに歩を進め、鎌倉の知恵袋といわれた大江広元邸を訪ねる。個人で来ても団体で来てもこんな所迄は見学することはできないと、皆さんとお話ししながら役員のお心配りに皆さんで感謝しました。

次に明王院へお参りし、藁葺屋根のお堂が後の山を借景となし見事によく調和して昔人の美意識に感心させられる。この美を後の世代の人達に引き継がれ、いつまでも残して欲しいものだと思います。昼食は傍の公園で、風も無く戸外の食事を楽ししく話し合いながら食べました。昼食後は光触寺へ。

光触寺は一遍上人が開山した時宗という宗派の寺で、ここではご住職の説明があり、「秘仏ですが、ご見学の事であけました」と頼焼弥勒の由来についてお話を伺って知る

事ができました。木像阿弥陀如来立像と両脇侍像、紙本淡彩頼焼阿弥陀縁起二巻は寺宝であり、国の重要文化財で運慶作とのこと。因みに頼焼弥勒の由来とは、ある女主人が侍女のおこした落度をせめ、焼ごての様な物で侍女の頬を焼いたという。ところがその夜、信仰心の厚かった侍女の身代わりか、女主人の枕元に弥勒が現われ立ち、その弥勒の頬は真黒に焼け血が流れていたとのこと。信仰厚い侍女の頬には何も無かったという事でした。

この辺り、露地の建物にも落着いたしっとりとした気配がたよい、故に文人墨客の杖曳く所となるのでしよう。春夏秋冬いろく、な顔をもつ古都鎌倉、機会があればまた来たい土地です。

万両の実もつややかな雪の寺

霜柱がまくらの土持ちあげて

ようこそおいでと客を迎える

会計報告

◎ 七草粥を食べる会 (10.1.20)
収入 参加者76×700=53,200
町長より 5,000
58,200
支出 材料費外 5,534
差引残 2,851

◎ 山菜を食べる会 (10.4.26)
収入 参加者56×700=39,200
支出 材料代外 3,913
差引残 66
上記差引残(郷土研へ) 29,774

◎ 日帰り・川崎大師・榎津方面 (10.3.25)
収入 参加者86×5,500=473,000
支出 バス代金 427,650
諸雑費 36,400
464,050
差引残(郷土研へ) 89,500円

◎ 泊見学会 飛騨高山方面 (10.5.19~5.20)
収入 参加者46×26,500=1,219,000
支出 バス代金 1,114,864
宿泊費 44,073
諸雑費 59,800
返金 1,218,257
差引残(郷土研へ) 243円

郷土研日誌 4月~6月		参加数
月日	内容	
4/15	郷土研1泊及山菜を食べる会申込受付	40
4/17	野草観察会 酒々井一本佐倉	22
4/26	山菜を食べる会 中央公民館	56
5/2	史談会「印旛郡誌酒々井町誌を学ぶ」③	22
5/19~20	飛騨高山泊見学会 ひだプラザホテル⑩	46
5/22	御成街道本作り (ネ協)	6
5/24	町内史跡めぐりハイキング (屋上・飯積方面)	28
5/28	編集会議 (和堂)	5
6/6	午前中 部長会議 (サークル堂)	11
6/6	午後 史談会④	23
6/9	名勝探訪 世田谷方面	18
6/12	運営委員会	23
6/15	御成街道を探訪 (第2回)	31
6/23	会報校正・印刷	7

### 郷土史講座案内

八月九日(日)の講演会にお招きする講師は、四年半前までは東酒々井にお住まいで、おられ、考古学においては、大変造詣深い白石太一郎先生にご講演いただくことになりました。

「邪馬台国は見えてきたか」と題し、最近の奈良県黒塚古墳における三三面の三角縁神獣鏡の発見などを踏まえて、邪馬台国連合からヤマト政権への展開など、日本列島における国家の起源についてお話いただけること。日本がどのように国家形成されたのか興味深いお話が伺えることと思えます。皆さまお誘い合わせて、ご来聴下さいますようお願い申し上げます。

### 講師紹介

白石太一郎 先生



現在国立歴史民俗博物館副館長  
昭和十三年(一九三八)大阪市に生まれる。

昭和四十三年(一九六八)同志社大学大学院博士課程修了

奈良県立橿原考古学研究所員  
文化庁文化財調査官、国立歴史民俗博物館教授などを経て、現職。放送大学客員教授、文化財審議会専門委員などを兼ねる。

専門は日本考古学で、考古学の立場から日本古代史の解明をめざしている。

主要な著書に『古墳の造られた時代』(毎日新聞社)。

『考古学への招待』(朝日新聞社)、『古墳時代のエッセ』(講談社)、『古墳時代の研究』全一三巻(共編著、雄山閣)などがある。

### 川崎・上総方面日帰り

井口邦子

予報では晴れとなっていたのに生憎の曇り空。今日一日何とかもって欲しいと祈るような気持ちでバスに乗り、車中で会長さんの「私は晴れ男……」とお話しにホットする。

先ず川崎大師。厄除けで有名ですが本当は平間寺だといふ。さしもの広い境内も平日のためか参詣人もまばらで、お陰で中々見学。朱塗りの八角五重塔は美しく輝いていた。昨年は健康がすぐれなかったのでも併せてお参りをし、家族の分も併せてお願いした。

バスは川崎の工業地帯からアクアラインへと向かい海ほたるで一服。三六の度のパノラマからは、残念ながら富士山は見えなかった。展示された世界最大級のシールドルマシンの一部を見て、その大きさに驚き、また海ほたるの名前がミジンコの仲間、海の

中で青い幻想的な光を放つ海ほたるから付けられたことを知りました。

水更津では高蔵寺を見学。おりあしく、屋根等修復工事中で堂内に入れず残念。

最後に妙楽寺を訪ねる。ここでは、以前酒々井に住んでおられたという住職さんのお計らいで、一般には公開されていない本堂の大壇を見せて頂く。本尊の大日如来座像(国の重要文化財)をまのあたりにし、荘厳なお姿に八百年の歴史の重みを感じました。今回の見学会は、古い歴史のある寺院と現代のハイテク技術の結晶である建造物を見て、それぞれの時代の人々の偉大さに心を打たれました。心配された雨も杞憂に終わりとて、も充実した楽しい一日でした。



妙楽寺 大日如来坐像





見学案内

日帰り見学会

湯西川温泉(栃原栗山村)

8月26日(水) 雨天決行

八百年間隠れ住み今なおひっそりと息づいている平家落人の湯の里湯西川、壇の浦の戦いに敗れ、源氏の追討を恐れ日本各地の辺境に息をひそめ住む平家の落人部落は、九州の雑葉、四国の祖谷、北陸の五箇山をはじめ全国各地に七ヶ所を超えるところ。源氏の目を逃れ、その土地では鯉のほりを上げない、鶏を飼わない、煙を出さない等々の秘境を探訪します。

湯西川歴史資料博物館

地元の旧家高山家に伝わる武器、民具、古文書、婚礼用具、兜や鎧、しよいこみ筆筒等が見もの。

◎平家落人民俗館

湯西川の古い歴史を物語る様々な資料は、旧家に大切に保存された宝物であり、見る人に感動さえ与えてくれます。

◎平家の里

源平合戦八百年を記念して造った施設、平清盛や敦盛の像、木工・藁細工等の実演や、日本で唯一の赤間神宮の分祠やその他、土地の名物も賞味できます。

◎慈光寺

平家落人の菩提寺です。平家祭の時、選ばれた行人達が泊りこみ、ここを出発して湯殿山神社に向かいます。

◎平家狩人村

湯西川温泉街から車で上流へ十分の深山溪谷に囲まれたところにある。湯西川の人達のくらしが、狩猟風景、道具作り小屋・祭場、馬・蚕・炭焼等の小屋が二十棟くらい並び、当時の様子を再現されている。

御成街道を探訪

▼船橋地区(B)

7月20日(月) 雨天中止

去る二月、講演会で御成街道の全容を講師の安藤一郎先生の楽しいお話でお伺いしました。

六月十五日、船橋から東金までの一直線の街道を始点船橋で第一歩を踏みだしました。

戦後めまぐるしく発展した船橋、街の様子は大きく変わり、昔日の面影を残すところはわずかでしたが、名勝旧跡はしっかりと保存されていました。第三回になります。七月二十日(月)は船橋大神宮から御成街道と成田街道(佐倉道でもある)の分岐点まで探訪します。

名勝探訪

▼柴又方面

9/8 (火) 雨天代替 9/11 (金)

柴又といえは眞さんに草だんご、その後でるのが帝釈天。此の頃すうかり寅さんブーム。そ

の柴又を訪ねます。

金町からバスにゆられ都立の水元公園下車、公園散策のあと南蔵院にある大岡越前蔵きの一件にも語られたことのある「しばられ地蔵」に行きます。荒縄でぐるぐる巻きにしばられたお地藏さんに、願かけに縄をかけてみれば如何でしょうか。

バスで柴又へ。柴又で昼食をとり、帝釈天にお詣りします。寛永年間に日忠が創立したといわれ、経栄山題経寺で日蓮が白刻した帝釈天が本尊。お詣りをしたあとは新設された寅さん資料館へ行き、笑いの中に人情の機微に小れた生き方に小れてみるのも楽しい名勝探訪ではないでしょうか。



金魚ウリ  
おとな子一緒に  
エー金魚

郷土研行事案内

H10年7月~9月

	7 月	8 月	9 月
史談会	4日(土) PM 1:30 公民館会議室 「印旛郡誌酒々井町誌を学心」⑤ 講師 高橋健一先生	休 み	5日(土) PM 1:30 公民館会議室 「印旛郡誌酒々井町誌を学心」⑥ 講師 高橋健一先生
御成街道を探訪 (第3回)	7月20日(月) 雨天中止 <u>船橋地区(B)</u>	京成酒々井駅 9:00 集合 京成酒々井駅 → 大神宮下駅 → 船橋大神宮 → 西福寺 → 了源寺 → 御成街道を歩いて京成津田沼駅 → 酒々井	自由昼食
郷土史講座 後援 酒々井町教育委員会 酒々井町文化協会	8月9日(日) P.M 1:30 開演 演題 「邪馬台国は見えてきたか」 講師 国立歴史民俗博物館副館長 白石太一郎 先生	会場 中央公民館 講堂	・P.M 1:00 開場 ・入場無料 ・御来聴の程お待ちしております。
日帰り見学会	8月26日(水) 八街観光バス利用(雨天決行) 集合 5:50 <u>湯西川方面</u> 定員 43名 参加費用 8,500円 受付日時 7月9日(木) 9:00 受付場所 中央公民館ロビー キャンセル 実施日3日前・会田宅まで TEL	(行程) 中央公民館 — 東北道 — 鬼怒川有料 — 湯西川歴史資料館 — 平家落人民俗館 — 平家の里(昼食) — 慈光寺 — 平家の里 — 平家 狩人村 — 竜王峡 — 鬼怒川有料 — 東北道 — 湯岸 — 中央公民館 19:10 着予定	
名勝探訪	9月8日(火) 雨天代替 9月11日(金) <u>柴又方面</u> (行程) 京成酒々井駅 → 金町 バス 永元公園 → しぼられ地蔵 バス 柴又(昼食) → 帝釈天 → 寅さん資料館 → 柴又 → 京成酒々井駅 実費個人負担	京成酒々井駅 8:10 集合(自由昼食)	
野草観察会	9月25日(金) 雨天決行(バス利用) <u>笠森方面</u> 申込受付日 7月9日(木) 9:00 受付場所 中央公民館ロビー 参加費用 1,500円(昼食含) 定員 30名 キャンセル 実施日3日前まで・会田宅に連絡 TEL	8:30 集合 中央公民館 観察場所 ユートピア笠森 周辺 11:30 まで 観察採取 13:00 から 勉強会をします 15:00 ユートピア茶・酒々井着 16:30 (予定)	



先客の傘ちらほらと菖蒲園

世界中各地をなやましたエルニ  
ニョ現象も終盤をむかえ、日本列  
島は今や梅雨最中、梅雨は中国江  
南地方と日本独特の気候なのだそ  
うですが、何と世界中が天候不順  
になってしまいました。早く梅雨  
が明けさわやかな日射しがほしい  
ですネ。でもこの時季ならではの  
花菖蒲や紫陽花など雨と相性のよ  
いお花が美しい風情を築ませて  
くれます。

郷土研究会も第三、四半期に入  
り行事ももう沢山。「御成街道を探  
訪」も第三回になります。皆様お誘  
いあわせて御参加下さいますよう  
お待ちしております。

